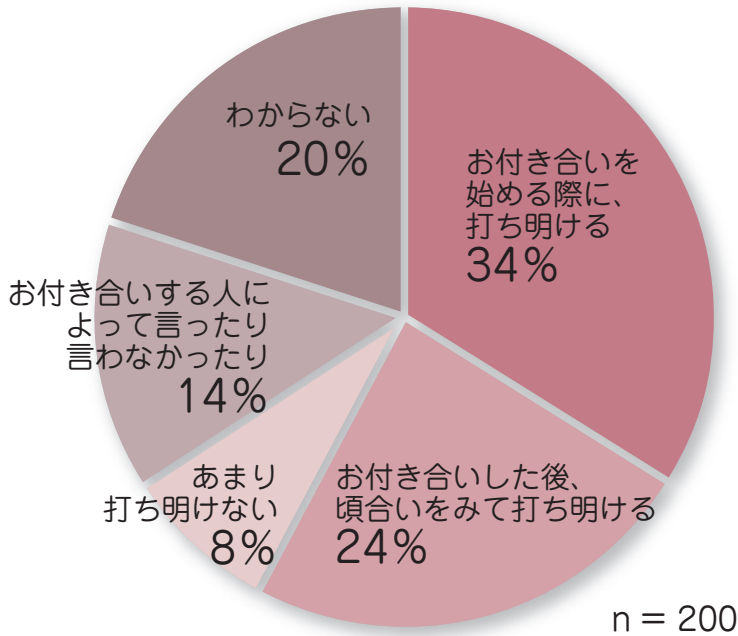


Q. 異性とお付き合いする際、あなたが糖尿病であることを相手に打ち明けていますか？

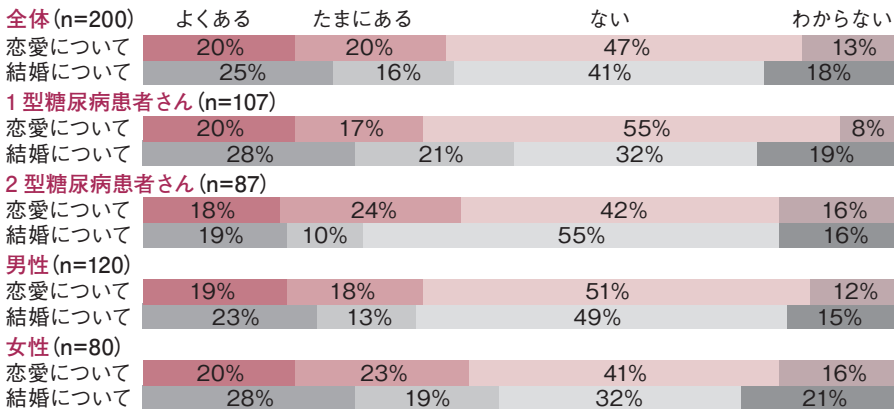


約6割の患者さんが、お付き合いの前後に「打ち明ける」と回答しました。パートナーができたことによる療養生活への変化については、36%の患者さんが「療養生活に前向きになった」と実感しているなか、「糖尿病があるために、恋愛や結婚を躊躇したり諦めたりしてしまう気持ちをもった経験がある」方も約4割。なかでも、1型の患者さんや女性の患者さんの「結婚について」、そのような経験があると回答した方は約半数と最も高値でした。また、「糖尿病のある女性は、計画的な妊娠が大切である」ことについては、53%が「知っている」と答え、女性では8割を占めました。

これらを背景に、自身の恋愛や結婚に関して医療スタッフに相談した経験のある方は2割と低く、「相談したいが切り出せない」「最近結婚したけど、ちゃんと子供が産めるか不安」「恋愛も結婚も「大丈夫」と周りに言われるが、現実問題、そんな簡単なことではない」「相手がどこまで受容できるのかがとても不安」等々、多くの悩みや意見が寄せられました。

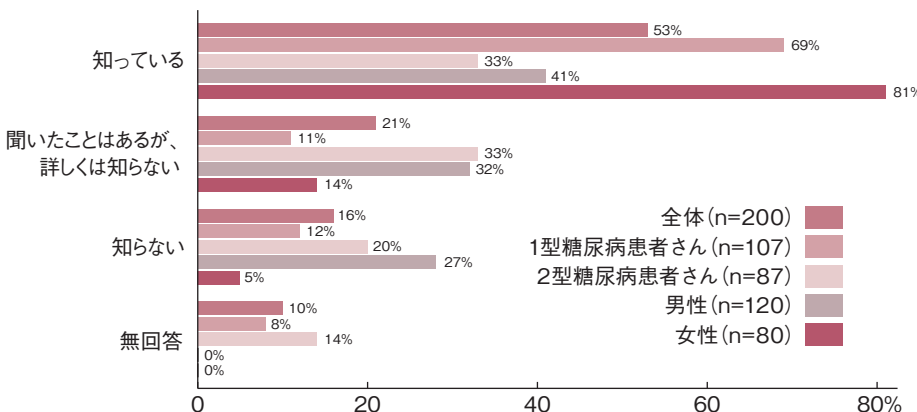
Q. 糖尿病があるために、恋愛や結婚を躊躇したり諦めてしまう気持ちをもった経験はありますか？

(n=200)



Q. 糖尿病のある女性は、計画的な妊娠が大切なことをご存知ですか？

(n=200)



●コメンテーター●

鈴木吉彦 (財)保健同人事業団診療所 所長、
日本医科大学客員教授

糖尿病患者さんが、このテーマにぶつかって悩んだ時、プロポーズを考える時、もし病院やクリニックの図書室に、この2冊の古書があったら読んでもらってほしいと思います。そして、恋人やパートナーの方にも読んでもらえれば、きっと、理解の一助にさせていただけると思います。『メリティスの窓—糖尿病でなぜ悪い』(病氣と闘う少女の感動的半生。保健同人社/1991年)、『ナイスコントロール!』(医歯薬出版/1990年)の57頁:「おもしろい、それはすべての人々の財産:糖尿病の恋人がいる人へ(ガリクソン夫人サンディから)」、29頁:「糖尿病をもって生きることの先生になればいい」。